7/13 福井

デルタ株 猛威

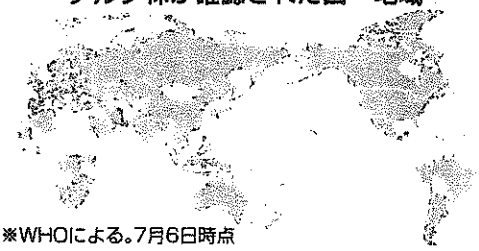
100カ国・地域超える

国内急拡大も

インドで最初に確認された新型コロナウイルスの変異株「デルタ株」＝☆NEWSの言葉＝が世界で主流となっている。世界保健機関（WHO）によると、少なくとも104カ国・地域に広がった。ワクチン接種を受けても感染する例が目立ち、危機的状況に陥る懸念もある。日本では既に新規感染の3割がデルタ株と推計され警戒を強化。東京五輪開幕までに猛威を振るう可能性もある。

【7面に表層深層】

デルタ株が確認された国・地域



※WHOによる。7月6日時点

接種進捗（しんちょく）後に感染者が激減した英国ではデルタ株拡大とともに一転して急増、完全な防護策は見当たらない。日本で投与が進むファイザー製とモデルナ製ワクチンには一定の有効性が確認されているが、国内ではワクチンの供給遅れが顕在化しており、接種加速が喫緊の課題だ。

英国では18歳以上の66％が既に接種を完了しているが、5月以降、デルタ株流入とともに感染者が増加に転じ、現在ではデルタ株が新規感染の9割以上。感染が急拡大するロシアの首都モスクワでも6月下旬にデルタ株が9割に達したと報じられた。

ワクチン普及で感染拡大を抑えている米国でも、デルタ株の比率は5月上旬の1％から、7月上旬までに推定52％に跳ね上がった。バイデン大統領は6日「デルタ株は容易に広がり、より危険な恐れがある」と指摘した。

英保健当局によると、ファイザー製のワクチンを2回接種すれば88％、デルタ株の発症を防ぐ効果があった。モデルナ社も有効性があるとしている。ただ、2回接種後の感染例も多く、イスラエル保健省は今月5日、ファイザー製の感染予防効果が従来の95％から64％に低下したと明らかにした。デルタ株の影響とみられている。

国立感染症研究所は6月30日、関東地方の感染者についてデルタ株の割合が30％前後を占めるとの推計結果を発表。北海道大や京都大は五輪開幕の7月23日時点で、全国で69％まで達する恐れがあると試算している。（共同＝稲葉俊之）